

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.81 2018年2月18日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

年頭にあたって

会員となられた一人ずつの方々との交流を深めていく

文化の仲間代表世話人 二村 終子

2018年が始まりました。半世紀ぶりの寒さだとか。——あの頃はミニスカート全盛、巷を闊歩していたと記憶していますが——今、寒さが身にしみるのは、年齢のせいだけではないと思っているのですが。

今年も年明け早々「お正月お楽しみ会」(1月14日)を開催しました。劇団周辺にチラシをまいたり、新聞に折り込みをしたり、手紙を書いたり……。その成果もあってか客席もにぎやかとなりました。特に劇団のご近所の子どもたちの顔を今年も見ることができたのはよかったです。11回目を迎えたこの会ですが、今回は本番当日より前にリハーサルをしました。(前回までは、当日になってみないと誰が何をやるかよくわからないなんてこともあったような気がします。)

準備をしていく中で、劇団の方々はどう協力していただかなければならないかということなども明らかになってきたと思います。発足して20年を過ぎ、門前の小僧たちも、学習し成長し、自立への道を歩み始めたと思います。

今回の「お楽しみ会」の演目「花さき山」は、鈴木たか子さんのピアノをバックに若菜とき子さんの語りという形が、小さな子どもたちには少々難しかったの

かもしれませんが、鈴木さんの真摯な取り組みには心うたれました。——後日、人はなぜ花を求めののだろうと思い始めてしまいました。私も花が好きです。花を生けることも好きです。「花を生けることは、生命を生けることです」そう言われたことがあります。土からだんだん遠のいていく生活の中で、花屋の店先のちょっとよそよそしい花を横目に見ながら通り過ぎてます。

もうじき春。今年も様々な行事に取り組むことと思います。会を運営するにあたり、会員を少しでも多くすることは毎年の課題ですが、まずは、ゆえあって、縁あって会員となられた一人ずつの方々との交流を深めていくことが必須だと思います。入会し、年月を重ねた方々、去年入会されたお二人、このメンバーを中心に据え、歩みを進めて行こうと。年頭にあたっての想いです。

皆様が、つつがなく一年を過ごされること、また、決して戦争の道を進むことのない国であることを心より願います。

本年もよろしく願いいたします。



司会いつものしろたにさんとコロちゃん



川内さんの元気体操で体がポカポカ...



子ども腹話術

ふくわじゅつのアザラシのクウちゃん 何もしゃべらなくておもしろかった

きく谷 さな (8歳)

わたしは、1月の14日に京浜協同げき団の文化の仲間のお楽しみ会に行きました。とちゅうの『花さき山』というお話のいみがよく分かりませんでした。おもしろかったのは、はじめのほうの子どもふくわじゅつのアザラシのクウちゃんが何もしゃべらなくておもしろかったです。ししまいに手をかじってもらってくすぐったかったです。休けいの時にジュースをもらいました。りんごとみかんのあじがしておいしかったです。お母さんは、みかんをはん分ぐらい、わたしはりんごをぜんぶのみました。ピアノであそぼうの時にピアノをひいていたのは、女の人で60才ぐらいでした。ピアノは、木とてつぐらいだけで作られているなんてはじめてしりました。さいごにわなげをしました。「年ごとにならんでください」といわれたのでよく考えてみたらわたしは、一ばん小さいチームになっちゃいました。わたしがなげて入ったのは、4つでした。けどしろたにさんに1つもらったので5つになりました。さいしょにしょうひんをもらえたのは5こいじょうの人でした。わたしは、ちょうど5つなのでさいしょにももらいました。しょうひんがおいてあるところにしょうゆがありました。しかいは、ふく



だれもピアノの下に入りませんでした

わじゅつのしろたにさんとゴローちゃんでした。ゴローちゃんもおもしろかったです。しろたにさんの口がちょっとだけ、うごいていました。それでわたしは、ストラップをもらいました。うしのひかるストラップです。お母さんは、タッパーをもらいました。わなげで一ばん多く入ったのは、9こぐらいの人でした。お母さんは、4つぐらいだったので、さいごらへんでもらっていました。ししまいの人のしんちょうが高かったです。じょうずだったです。「ピアノの下に入ってもいいよ」といってましたが、だれもピアノの下に入りませんでした。わたしは、女の子でだれか入ったら、入ろうとしましたがだれも入らなかったのわたしは、ピアノの下には、入りませんでした。わたしは、だいたいみんながつきがすきだから、だいたいの子どもが入るかと思いましたがだれもピアノの下には、入りませんでした。



ピアノをバックに「花さき山」の朗読

* * *

小2の娘と初めて参加しました。娘は帰ってからぬいぐるみで腹話術の真似をしていました。大人も子どもも楽しめる盛りだくさんの内容で、色々な可能性の広がる企画ですね。特に参加型の出し物は一体感もあって良かったです。これからも期待しています！

菊谷 友美 (川崎さいわい市民劇場 事務局長・文化の仲間会員)



みんなの参加で輪投げ大会

劇団員による劇団員紹介 第1回——河村はじめさんによる細田寿郎さん紹介

劇団内と外での支持・評価にこれほど大きな開きのある人も珍しい

京浜協同劇団 河村 はじめ



劇団員「他己紹介」コーナーを開始するという。その第一弾・細田寿郎さんの紹介を仰せつかった。60周年になろうとする劇団の創立メンバーをその三分の一に満たない団員が紹介する。編集者の狙いは押し量るしかないが（どうあっても断れないのがこの機関誌の原稿依頼）、これも一興、未永く続くコーナーであってほしいと願いつつ、思い浮かんで来るものを綴ってみる。

誤解を恐れずのっけからド直球を投げれば……劇団内と外での支持・評価にこれほど大きな開きのある人も珍しい。その事は入団以来大きな一つのクエスチョンだったし、劇団及び細田氏を考える興味深い材料を私に提供してきた。劇団の長い歴史は芸術である所の演劇と共にあり、それは言葉で言い尽くせない絵や映像や匂いや音といったものと共にあったという事であり、これを理論に対置して仮に「ドラマ」と呼ぶとすれば、細田氏と劇団が描いてきたものも、大きなドラマの中に包摂されている、私はそんな感覚を持つ。

樹木のような人

私が細田さんという人を掛け値無しに評価するとすれば、「考えさせる」言動を取る人である事、この一事である。物を作る場にとって「居合わせる」という事はとても大きい事、創立以来一度も劇団を離れる事なく「作る場」に立ち会い続けてきた細田氏は、私にはある意味で劇団そのものだ。歴史の縦軸と、同時代という横軸の中のその位置を知らしめるだけの目的のために存在する羅針盤、私の妄想気味なイメージを当てはめれば、『モモンガのムサ』（手塚治虫）でムサに語りかける大木（クスノキ）である。

細田氏の主観＝フィルターを通したその向こうの風景を想像しながら昔話を聞くのは楽しい。一つの



解釈で棚の中に整理されがちな事物・事象に、違った解釈の余地を吹き込むのは、マイノリティのプロテストである前に必要なリベラルの土壌、それに必要なのは生の事物・事象そのものだ。細田氏は物事に対していつも「今」の解釈を探っている

る人だ、と私は感じている。生涯現役の人である。

さて細田氏と言えば（キャッチーな所で）「こだわりの食材しか使わない板前」というのがある。「料理人細田寿郎」は、細田氏が自分という俳優を演出して作った見事なキャラで、ハマり役だ。

大道具を始め、大工仕事でも力を発揮する。様々な種類の工具が所狭しと並ぶのは個人的趣味もあるだろうが、私が在籍した期間にも、劇団の要請か否かを問わず様々なものを拵えている。その発想と造作は「物を作る人」のそれで、刺激的である。

そして、演出家であること。もっとも私は演出家とはあやふやなものだと思っているが、匙加減一つで印象が変わる微妙な芝居でその匙加減を振るうのが演出、責任の重さはそうした場合に決定的という事はある。私自身は細田演出の経験が殆どないが、細田氏の時に細かく、時に広く、また重かったりするコメントは演出家由来に違いない。年表を紐解けば劇団も様々な時代があった。三劇団合同（創立）後のカオス時代、小田健也氏を招いての研鑽の時代、様々な模索の時代（以上勝手な名付けは筆者）。集団がどう歩み来って何を引き渡すのか……真っ直ぐでなかった劇団の歩みを、それをつぶさに見てきた風景を細田氏は様々な方法で語ってくれたし、これからも語って欲しい。もちろん「過去」としてでなく「今在る」ための言葉で。

悩みつつ絞り出す言葉を

さて冒頭に書いた細田寿郎その人の評判についての話を蒸し返す。細田氏の発言が疎まれがちだとすればその理由は「長い」からでなく、きっと抽象的文言が多い事が一つだ。物作りは具体性を重んじ、具体を想起させない抽象文言は敬遠される。だが観念レベルでの大事な議論も一方であるだろう。新たな一歩という時には経験より観念を頼って踏み出す。前者に偏れば「経験主義」、後者には「観念主義」の陥穽がその先にある。思えば細田さんの言葉はその狭間で勝負している。何の勝負かはその時々。だが私は細田さんが悩みつつ絞り出す言葉を今日も密かに楽しみにしている。（でも、いらっしゃるだけで大丈夫です。どうかお体を大事に）

会報編集部から：劇団員のことをもっとよく知りたいという声を受けて、今回からもっとも身近にいる他の劇団員の方に紹介をしてもらおうことになりました。誰が誰をどんなふうで紹介するか、ご期待ください。

連載 「京浜協同劇団」と私——第4回

横山茂さん率いる「わらび座」を紹介された

岡田 京子

① 6歳から3年間、私はソビエトとモンゴルの国境に近い満州のハイラルという所で暮らしました。その1930年は、関東軍の独断で始まったノモンハン事件の真っ直中で、たった数ヶ月で終わったその戦争に、日本は大敗しています。父の勤めていた陸軍病院は野戦病院と化し、病院の廊下まで担架で溢れている負傷兵の包帯交換に家族もかり出される有様でした。

その国境の町には、満州人のほか、モンゴル人・朝鮮人がいましたが、もっとも少数の日本人が一番威張っていて、手伝いに来る人、馬車を引いて物売りに来る人・道で会う人たちに、家族を含めて横柄な口をきく日本人を恥ずかしく思ったことを、昨日のように思い出します。

② ロシア人も少数いました。祖国の革命から逃げてきた人と言われ、少し高地で酪農をしながら暮らしていて、朝、ビンに牛乳を詰めて配達してくれるのはオーリャという名の少女でした。

教会兼小学校のような小さな建物を持っていて、クリスマスの際は近所の日本人の子どもたちを招いてくれました。みんな網の袋に入れたリンゴやくるみや松の実などをもらって、それから輪になってアコーディオンに合わせてみんなで手をつないで左に行ったり右に行ったりしながら踊るのです。輪の外には親たちが

いて、みんなで歌いながら手拍子を取ります。私たちは引きずられるようにして歩いているに過ぎないのですが、その楽しさは私にとって生まれて初めてのものでした。でも期待して入った日本人の小学校の音楽はつまらなくて、次の年帰った日本の学校も戦争中でしたから、やっぱりつまらなかったのです。

※この二つの出来事は私の教訓みたいになっていて生涯ついて回ったと言えます。①人を差別してはいけない、②音楽は楽しいもの、そしてみんなでやるものだったのです。

※②についてもう少し言いますと、19歳で初めて作曲を勉強したいと思い、友人の紹介で「原太郎」という先生を訪ねた時、「君は日本の民謡を知っとるかね」と言われてしどろもどろとなり、「日本の民謡はラジオかレコードで少し聞いていますが、なんだか暗くてすきになれません。私はロシア民謡をやりたいんです」と言いますと、先生は呆れ返って「キミーイ、ロシア民謡はロシアの民衆が営々と長い間かかって創りだしてきた民衆の歌だよ。作曲家の母語はいつだってその国の民謡なんだ。日本の民謡を勉強したまえ」と言われ、先生の紹介で、当時、秋田に根を下ろしていた横山茂さん率いる「わらび座」を紹介されたのです。



ピアノコンサート

ゆずり葉のうた

～あなたから私へ
私からあなたへ～

日時 2018年5月12(日) 午後2時開演 (1時30分開場)
会場 武蔵野スイングホール (JR 武蔵境駅北口徒歩2分)
曲目 ベートーヴェン：ピアノソナタ第31番 Op.110 / 安達元彦：
MIN-YO 〈日本民謡に基づくピアノ曲集〉より / 安達元彦：新作
書き下ろし ほか

ピアノ 秋山ちづる ゲスト 安達元彦 (作曲・ピアノ)

主催 ぞうきばやし

料金 大人 3500円 中高生 2000円 小学生 / 未就学児 無料

問合せ・申込み 船岡 03-3208-8515 (TEL/FAX)

松本 080-5031-4921 hyuhyu8@yahoo.co.jp

(ともに文化の仲間会員のお二人のコンサートです)

渡辺高志さんのこと

光野 正洋

渡辺高志さんの訃報は、私にとって、近年で一番悲しい出来事でした。

渡辺高志さんは、小松製作所で働いているときの2年先輩でした。私のほうが先に会社を辞めることになったのですが、その時の思い出が忘れられません。

私たちは、1970年代、オイルショックを口実とした、職場の民青、共産党員、労働組合活動家を狙い撃ちにした、一時帰休という名の労働者首切りに遭遇してしまいました。私が21歳でしたから、渡辺さんは23歳だったと思います。私は民青の活動を始めたばかり。渡辺さんは労働組合の青年婦人部の中心として活動していました。当然、仲間とともに立ち上がり裁判闘争に打って出ることになりました。が、激しい退職勧奨などの攻撃にもあい、たいへん悩んだ時期でもあったのです。田舎に、母親一人残しての裁判闘争だったからです。

渡辺さんは、そんな事情を知ってか、自分の生い立ちも語りながら、励ましてくれました。渡辺さん自身も「信念の人」という感じではなかったのですが、私たちの身の丈にあった励ましだったように思います。

その闘争を通して、私は共産党員になったわけですが、渡辺さんはもうすでに党員としての活動も行っていました。裁判闘争も、勝利的解決で決着がつき、職場復帰したのですが、私は大阪工場に転勤になってしまいました。すぐに川崎工場に戻ってきましたが、渡辺さんは、機械工から、決して楽でない、みんなが嫌がる塗装の職場に変えられていました。ご存知のように小松製作所のトラックなど建設機械はすべて黄色です。黄色のペンキまみれになった顔でにっこり笑う姿に、何があってもへこたれない姿を見た思いがしたものです。

そしてその頃、私にも一大転機がありました。地区委員会の要請で「民青の専従」ということになり、工

場の民主化の運動にあまり中心的任務でなかった私に白羽の矢が立ち、民青の専従として活動するために、会社を辞めました。

私は、決して優秀な活動家ではなかったのですが、民青や共産党の専従としての仕事には魅力を感じていましたから、すぐに、お受けすることにしました。ところが、「あいつはすぐ辞めてしまうだろう」「続くわけがない」ということが言われていたようです。

渡辺さんだけは違いました。

今でも、はっきりと覚えています。職場での最後の会議が終わり、帰ろうとしているとき、渡辺さんが、酒一升と1万円の選別を「ほら、持っていけ」と、少し、はにかんだ顔をして渡してくれたのです。

うれしかったですね。私は、このことがあったから、民青、そして共産党の専従が続けられたのです。よって、天国に行ってしまった渡辺さんに言いたいのです。「66歳になるまで、決して楽でなかった仕事も続けてこられました。渡辺さんからいただいた酒の味も、1万円の使い道も忘れてしまいました。渡辺さんの気持ちは、私に響いていましたよ。ありがとうございました」

渡辺さんは、京浜協同劇団に入り、演劇でコミカルな役もこなして、本当に輝いていました。そうそう、フーテンの寅さんに扮した「バナナのたたき売り」は、一番の当たり役でした。

こんなことになるんだったら、もっと、一緒に飲んでいけばよかった。



会報編集部から：昨年10月に亡くなった劇団員の渡辺高志さんの追悼文を、元の職場の同僚だった光野正洋さんに寄せていただきました。

今年は演劇まつりの公演です

日程 7月14日(土)・15日(日)

会場 多摩市民館ホール

演目 未定(ただし宮沢賢治作品「どんぐりと山猫(仮)」検討中)

原案 城谷創一/脚色 丸尾聡/演出 大西弘記(劇団TOKYOハンバーグ主宰)

詳細が決まりましたらチラシ等でお知らせいたします。

かわさき演劇まつり実行委員会(河村はじめ)

日程・会場が決まりました

◎文化の仲間通信◎

◆原発ゼロへのカウントダウン in かわさき 第7回集会
日程 3月11日(日) 10:30～飲食ブースなど多数出演
12:00～文化行事 13:00～本集会(ゲスト発言など)
14:15～デモ行進(会場～武蔵小杉)

会場 川崎市中原平和公園
予約不要・参加費無料 どなたでも参加できます
ゲスト 三上元(原発ゼロ自然エネルギー推進連盟・幹事/元湖西市市長 脱原発を目指す首長会議 世話人)・服部崇(福島県北農民連事務局長)
主催 「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員会

問合せ 川崎合同法律事務所(三島) 044-211-0121
◆静かな空を返せ♪の歌声を 2018.3.10 大和シリウス
日程 3月10日(土) 13:30 開演
会場 シリウス メインホール(大和駅から徒歩4分)
参加費 前売 1000円 学生等 500円 未就学児無料(当日1200円)

第1部 オープニング(合唱団ピナ・ベリー) / 歌とトーク(ゲスト 横井久美子) / 第2部 ソプラノ独唱(鴨志田啓子) / 厚木基地の騒音問題等のお話&映像(金子豊貴男・第4次厚木爆音訴訟団団長) / 創作組曲 湘南の風に乗って(“静かな空を返せ”合唱団)
主催 大和みんなでつくる平和コンサート実行委員会
厚木基地の米軍機が1964年9月に大和市内に墜落、五つの命が奪われた。“静かな空を返せ”の願いを歌声に込めてお届けします。

問合せ・申込み 046-272-0103(平原)

◆青年劇場 第118回公演 きみはいくさに征ったけれど
日程 3月13日(火)～18日(日)
開演時刻は問い合わせください

会場 紀伊国屋サザンシアター TAKASHIMAYA
作 大西弘記 / 演出 関根信一 / 出演 島野仲代・中川為久朗・福原美佳・秋山亜紀子ほか
料金 全席指定 一般5150円 U30(30歳以下)3011円 中高生シート1000円
みずみずしい感性で多くの詩を残し、23歳で戦死した竹内浩三。今なお多くの人を惹きつけてやまない彼と、現代の高校生が出会ったら……

問合せ・申込み 青年劇場チケットサービス 03-3352-7200

HP: <http://www.seinengekijo.co.jp/>

◆川崎市民劇場 例会 劇団民藝公演 アンネの日記

日程・会場 4月7日(土) 15:30 幸市民館
4月11日(水) 18:15・12日(木) 13:30 エポックなかはら
作 アンネ・フランク / 演出 丹野郁弓 / 出演 千葉茂則・白石珠江・八木橋里紗ほか
第二次大戦中のドイツ占領下のアムステルダム。ユダヤ人狩りから逃れ屋根裏部屋に……。総ステージ数1700回を超える劇団民芸の財産演目。

問合せ・申込み 川崎さいわい市民劇場 044-244-7481

川崎市民劇場なかはら 044-455-7950

◆ミュージザ川崎 ホリデーアフタヌーンコンサート
2018年前期

《春へのあこがれ》3月4日(日)
千住真理子ヴァイオリン・リサイタル
ピアノ 山洞智 全席指定 3900円

《ベートーヴェン チェロ・ソナタ全曲II》4月14日(土)
堤剛(チェロ) 仲道郁代(ピアノ) デュオ・リサイタル
全席指定 4100円

《新星の煌めき—俊英デュオ》5月3日(木・祝)
山根一仁(ヴァイオリン) 北村朋幹(ピアノ) デュオ・リサイタル
全席指定 3900円

《バラード～オール・ショパン》6月2日(土)
シャルル・リシャル＝アムラン ピアノ・リサイタル
全席指定 4100円

《若きピアノの貴公子》7月14日(土)
實川風ピアノ・リサイタル
全席指定 3600円

会場 いずれもミュージザ川崎シンフォニーホール
各回 13:30 開演
指定席 5公演セット券 14900円
問合せ・申込み 神奈川芸術協会 045-453-5080
HP: <http://www.kanagawa-geikyo.com>

◆東京芸術座公演 No.103 いぐねの庭
日程 4月10日(火)～15日(日)
14:00 または 19:00 開演(詳細問合せ)

会場 吉祥寺シアター(吉祥寺駅北口徒歩5分)
作 堀江安夫 / 演出 杉本孝司 / 出演 相沢ケイ子・手塚政雄・樋川人美・星野子熊・江部茜ほか
料金 一般 5000円 U30(30歳以下) 3500円
障がい者割引 3500円ほか

2011年夏、仙台市郊外の幸田家は震災から半年を経て、もほとんど手つかずの無残な状態のまま……。卓の上には一枚の死亡届……

問合せ・申込み 東京芸術座 03-3997-4341
HP: <http://www.tokyogeijutsuza.co.jp>

◆横浜みなとみらいホール開館20周年
バーンスタイン生誕100周年記念演奏会

日程 5月26日(土) 14:00 開演(16:30 終演予定)

会場 横浜みなとみらいホール 大ホール
出演 井上道義(指揮) / 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 / 福間洸太郎(ピアノ) / 山根一仁(ヴァイオリン) / 工藤重典(フルート) / 鷲尾麻衣(ソプラノ) / 大山大輔(バリトン) ほか

曲目 交響曲第2番「不安の時代」 / 「セレナード」プラトン「饗宴」に基づく / 「ハリル」 / ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」より ほか

料金 全席指定 1階・2階正面席 8000円
2階バルコニー・P席 6000円 3階席 4000円

問合せ・申込み 横浜みなとみらいホールチケットセンター 045-682-2000
HP: <http://minatimirai.pia.jp/>

■文化の仲間ギャラリー■ 大谷 敏行④

「厳選」大谷敏行の川柳塾
遣る瀨ない基地の沖繩 余りにも
基地の中に沖繩がある 地位協定
「不時着」を無事でよかったとシカトする
国有地 虎の威を借り 掠め取る
飽きもせず 看板すげ替え 安倍商店
国難を煽って 国民籠絡し
訓練し 子どもを「戦争馴れ」させる
また一人 日本の良心 去って行く